

第十六回 新城薪能

とき 平成十七年八月二十日(土)
午後五時三十分始
ところ 新城文化会館大ホール
入場無料

能組

仕舞

八田田八

島村村島

加藤 晃
今泉尚美
定盛展也
村田昂平

仕舞

猩々

々々

杉浦史佳

5時30分

火入式

新城市議会議長
新城市教育長

岡嶋 威典
小林 芳春

5時45分頃

連吟

小原御幸

法皇荒川享子
内侍鈴木富代
シテ永田聡子

伊藤秀子
金田夏代子
加藤佳子
星野弘子
今岡アイ子
小林寿枝

ごあいさつ

新城市市長

山本 芳央

連調

網之段

粟谷明生

小林寿枝
今岡アイ子
星野弘子
永田聡子

狂言

水掛 聳

舞 佐野泰三
男 小澤貞博

女 山口俊一

6時15分頃

後見 権田重紘

7時頃

仕舞

湯谷 敦盛 玉葛 天鼓

伊藤秀子 小林寿枝 金田夏代子 加藤佳子

仕舞

笹之段

太田康弘

狂言 萩大名

大名 大原正巳

太郎冠者 天野雅夫
茶屋 山本勝

後見 酒井宏

7時40分頃

能

船弁慶

子方 村田昂平
シテ 中嶋康夫

ワキ 牧野修
ウキツレ 太田研司

大鼓 清水利高
小鼓 森田收

大鼓 鈴木崇史
笛 酒井淑規

間 加藤賢一

後見 栗谷明生
鈴木肇

地謡

長田共永 今泉英三
加藤貢 中村邦生
竹内三郎 栗谷能夫
竹内省吾 栗谷浩之
杉浦史佳 太田康弘

附祝言

(終了予定九時頃)

主催 新城市文化協会
後援 新城市

新城市教育委員会
新城市観光協会

あ ら す じ

狂言 水掛 舞 (みずかけむこ)

舞 (シテ) が田の見回りに来て、水が隣の舅の田に取られていることに気づき、畦を切つて水を自分の田に引き、他の畑を見回りに行く。次に同じように見回りに来た舅は田に水がないのに気づき、舞の田から水を引き返すと、水をとられない様に番をする。そこへ戻ってきた舞が水を引こうとして、舅と口論になる。互いに畦を切つて争う所に、妻が来て仲裁をするがとまらず最後は……。

狂言 萩大名 (はぎだいみょう)

国元に帰る事になった田舎大名が、良い庭を持っている知人の所に物見遊山に訪れるが、丁度、萩の花の盛りで、その庭の見物に行くと、亭主が風流な人で、歌を詠まされるからと言われ、太郎冠者に教えられた和歌を覚えて行くが、その首尾は……。

能 船 弁 慶 (ふなべんけい)

源義経は、平家追討に武功を立てますが、戦いが終わるとかえつて兄頼朝から疑いをかけられ、追われる身となります。義経は弁慶や従者と共に都を出、摂津国 (兵庫県) 大物浦 (尼崎市) から西国へ落ちようとしています。静御前も義経を慕つてついて来ますが、弁慶は時節柄同行は似合わしくないから、都へ戻すように義経に進言し了承を得ます。弁慶は静を訪ね、義経の意向を伝言しますが、静は弁慶の計らいであろうと思ひ、義経に会つて直接返事をするといひます。義経の前に来た静は帰京をいひわたされ従わざるをえず、泣き伏します。名残りの酒宴がひらかれ静は義経の不運を嘆きつつ別れの舞をまいます。やがて出発の時となり涙ながら一行を見送ります。 (中入)

船は整い、船出を命じようとする弁慶。そこへ従者がきて、波風が強いのでここに逗留してはどうかという義経の言葉を伝えます。しかし、義経の静への未練であろう、と弁慶。かの屋島の合戦での船出を例に一同を励まし、船頭に船出を命じるのでした。船が海上に出ると、にわかには風が変わり激しい波が押し寄せてきます。船頭は必死に船をあやつりますが、(船をあやつる船頭と弁慶、従者とのやりとりは見せどころとなっています)。吹き荒れた行手の海上に立ち現れる平知盛と平家一門の怨霊は、自分が沈んだように義経主従を海に沈めようと費いがかつてきます。義経は、少しも動ぜず戦いますが、これは勝てぬと見てとる弁慶は、知盛と義経の間に押し入り、五大力尊明王の呪文を唱えるのでした。怨霊なれば祈祷で追い払おうとするものです。祈られた怨霊は、しだいに遠ざかり、いに知盛・祈り伏せられて波間に消え去るのでした。

薪能 (たきぎのう)

この名称は夜になって薪をたいて、それを照明がわりに演能するところから来た名称ではありません。もとは「薪の神事」などと称して新年に御薪を寺社に献進する儀式で、一種の春迎えの信仰行事でありました。それに伴って行われる猿楽が「薪の猿楽」でありました。奈良の「薪能」は奈良時代に起こった行事で、興福寺の修二会しゆにえに鎮守の社から東西金堂へ行法のために薪を積む儀式であり、その時翁式の聖者が薪を負うてまうことが芸能化しました。初めは寺に所属する呪師しが司っていました。後、猿楽者が代行するようになりました。能楽が大成後は金春座が責任者となり、他の座も参勤していましたが、明治以降は中絶、戦後昭和二十一年復活、昭和二十五年京都薪能が平安神宮で催されて以来、各地で大衆野外能として流行するようになりました。

新城に於ては新城文化会館が完成したのを契機に、平成二年第一回新城薪能が新城市文化協会主催で催され大好評を得ました。富永神社の祭礼能とは別に、誰でも参加出来ることとなり、正に「能の里」を目指して参りたいと存じます。現在全国で二〇〇カ所程薪能が催されていますが、職分の先生方の演能がおおく、新城薪能は素人による演能であることが特徴であって、今後永い伝統を持つ祭礼能と共に、薪能を新しい伝統として守り発展させて参りたいと存じております。今後とも皆様方のご支援をお願い致します。

謡・仕舞・囃子(笛、小鼓、大鼓、太鼓)・狂言のお稽古をなさりたい方は
お気軽に文化協会事務局へお申し込み下さい。それぞれ向きにお世話を
致します。